

第3回地方独立行政法人公立甲賀病院評価委員会議事録（概要）

日時：平成30年（2018年）11月26日（月）14時05分から15時30分
まで

場所：公立甲賀病院 診療棟2階 講堂1

出席者：

病院組合 谷畑管理者、岩永副管理者、佐井事務局長
委員 福島委員長、周防委員、木村委員、石井委員、甲斐切委員
公立甲賀病院 清水院長

陪席者：

公立甲賀病院 北林看護部長、地方独立行政法人移行準備室 中尾室長(事務次長)・今元事務次長・中村課長補佐・山西主任・谷川参事・主任 加藤、北林人事課長、上嶋管財課長、寺村診療支援課長(兼医事課長)

甲賀市・湖南市職員

有限責任監査法人トーマツ 高橋ワシントン州公認会計士

欠席者：大橋委員、廣原委員

主な内容：

中期計画案について

◆以下のとおり委員より質問、意見あり。

- ・「①近江八幡総合医療センター程度の稼働率は必要ないか。②患者数の妥当性の根拠（人口減少の中でどう確保するか）。大きな設備投資、ロボット手術機器などがないと集客が難しい。」との委員の質問に対し、院長より以下の回答がなされた。

「患者数より診療単価を優先して上昇させたい。現在は看護師不足でHCUを一般病棟として使っているが、看護師を確保し、HCUやICUで運営できれば、目標の診療単価達成も可能。看護学校卒業生の当院への就職率は6～7割に留まっているため、看護師派遣業者の活用も考える。医師、薬剤師やリハビリ部門など職員の報奨制度を考えている。当院の患者層をしっかりと調べる必要がある、その結果によりダウンサイジングも考えていく。」

回答に対し、委員より「看護師不足については一緒に考えていきたい。」との意見があった。

- ・「医師数増の具体策は。」との委員の質問に対し、院長より以下の回答がなされた。

「麻酔科、救急科で2～3名の確保の目途がついている。高齢者は急に

病気になるので、救急を充実させないといけない。医師の高齢化もあり、若手から中堅までの医師を確保したい。」

- ・「①感謝の件数の積算は。②減価償却費は、なぜこのような推移か。」との委員の質問に対し、院長及び事務局より以下の回答がなされた。

「①については、患者サービス委員会で集計されている件数など。

②については、法人化後は残存価格が1円に変更となるため、初年度に大きな減価償却費が発生する。コンサルタントと共に精査する。」

- ・「小児救急について、水口医療介護センターと協働する体制にならないか」との委員の質問に対し、院長より以下の回答がなされた。

「最も求めているのは休日急患診療所である。小児救急は、県の構想で、7医療圏を4つの医療圏に再編して運用することが決まっており、希望としては、1次・2次・3次救急と分けず、小児救急患者はそこに行きたくて欲しい。ただし今後も、19時までの平日小児科医待機や、土日の小児救急体制は現状どおり続けたい。

水口医療センターと協議したことはないが、休日急患診療所と合わせて検討が必要」

- ・医療安全研修の回数を目標にするなら増やさないといけないのではないかと。個人情報保護については委託事業者の研修も考えてはどうか。

(委員長)

役員報酬案について

役員報酬規程及び報酬額の案（理事長…月額75万円、副理事長…月額65万円、理事…月額55万円、監事…1回5万円）を提示（説明者：中尾事務次長）。特に意見なし。

<資料>

- ・ No.1 前回委員会後の経過
- ・ No.2-1 地方独立行政法人公立甲賀病院 中期目標・中期計画（案）対照表
- ・ No.2-2 中期計画項目内容比較表
- ・ No.2-3 他法人における指標採用状況
- ・ No.3 地方独立行政法人公立甲賀病院役員報酬等規程（案）
- ・ No.4 地方独立行政法人化の主なスケジュール表（案）
- ・ No.5 役員報酬等に関する地方独立行政法人法の関係規定
- ・ 中期目標期間の予算・収支計画・資金計画

以上